

平成 31 年 第 1 回区づくり推進横浜市議員会議（緑区）議事録

開催日時	平成 31 年 2 月 4 日 午後 2 時 45 分 ～ 午後 3 時 55 分
場 所	緑区役所 会議室 3 A
出席者	<p>【座 長】 齊藤達也議員</p> <p>【議員：3 名】 高橋正治議員、今野典人 議員、宮崎悠輔 議員</p> <p>【緑区：27 名】 小野崎信之 区長</p> <p>林昭宏 副区長</p> <p>室谷洋一 福祉保健センター長</p> <p>豊基信 福祉保健センター担当部長</p> <p>関戸義仁 土木事務所長</p> <p>ほか区関係職員</p>
議 題	1 平成 31 年度 個性ある区づくり推進費 予算案
発言の 要 旨	<p>1 平成 31 年度 個性ある区づくり推進費 予算案 (区長・副区長説明)</p> <p>【4 暮らしの衛生推進事業】</p> <p>齊藤議員：ペットは家族の一員だ。災害におけるペット対策は獣医師会と協働ということだが、飼い主同士の交流についてはどうか。</p> <p>村上生活衛生課長：飼い主同士のつながりについては課題だと考えています。拠点をまたぎ、区全体を対象として災害時に役立つ犬のしつけ方教室を開いており受講していただくことで、講義や実技をやることで飼い主同士交流する機会を設けています。そのほか飼い主さんのグループに出前講座を行っており、災害への備えもお話しさせていただいています。今後はもっと利用してもらえるようアピールをしていきたいと思えます。</p> <p>【5 健康たうん・みどり推進事業、23 みどり！まると応援事業】</p> <p>宮崎議員：緑区にたくさんある野菜直売所などを、区民に活用してもらえようような取り組みはどのようにすすめているのか。</p> <p>大塚区政推進課長：緑区は、直売所の数は 18 区で一番多いと言われていいます。その中で御協力いただける方に声かけをして、直売所マップを作成しイベントなどで配布しています。また、区役所で直売所の運営をしたり、福祉保健課の事業「みどりをたっぷり召し上がれ」で緑区産の野菜を使っていますが、一般のスーパーで目にするというレベルにはなっていない状況です。引き続き、PR をしていきたいと考えています。</p> <p>【10 DV 対策・児童虐待防止事業】</p> <p>今野議員：野田市であったようなケース、親が執拗に情報公開を求めた事</p>

例はあるか。そういう場合、緑区ではどう対応するのか。弁護士に早くつなぐのが一番だと思うのだがどうか。

久保田こども家庭支援課長：学校が情報をつかんだ場合には、基本的には区役所か児相に連絡することになっています。ただ、DVが絡んだ脅迫的な事例ですと区役所に連絡が入ります。区役所に御相談をいただき、その結果、母親と子供でシェルターなどに行かれて、いなくなったということで父親が学校のほうに追及することはあります。それが今のところ事件につながるということはありません。

高橋議員：児相に保護された場合、区は保護者対応をするのか。

久保田こども家庭支援課長：ケース・バイ・ケースですが、例えば母親に対して保健師が継続的にかかわっていたケースであれば、福祉で対応し続けることもあります。子どもが一時保護された場合、その子どもに関しては全て児相が対応するので、一時保護について保護者から区役所に話しが来ることは基本的にはありません。もちろん「おまえらから児相に言ったのだろう」と言われることはあるので、言える範囲できちんと見えています。必要な対応はしています。

【15 高齢者あんしんサポート推進事業】

今野議員：認知症高齢者等サポート事業で、QRコードを活用するようだが、どのようなイメージか。

門脇高齢・障害支援課長：QRコードの事業は、横浜市全体、18区で展開するものです。認知症SOSネットワークに登録いただき、参加したいという方にQRコードをお配りします。洋服などに貼られたQRコードをスマホで読み取るとID番号が出てきますので、それをコールセンターに連絡すれば、その方の身元等がわかり、コールセンターから警察や家族に連絡をすることで、早期に家族の元に帰れる事業です。

こちらの事業は、市の事業のベースになるSOSネットワークへの登録をなるべく多くの方にさせていただいて、早期の発見につながることで、あわせて認知症への理解を啓発することによって、遠くに行ってしまう前に、近所を歩いているところで声をかけていただき、早目に家族のもとに帰っていただくという事業です。幸いにも、ここ最近緑区では遠くに行ってしまう、行方知れずになってしまった認知症の高齢者の方はいらっしゃらなくて、近くのスーパーで発見してくださったり、警察に保護されたりとい

うケースが多い状況です。

【16 障害者自主製品販売支援事業】

齊藤議員：これはいろいろな団体も参加していて非常にいいと思う。できれば商品の魅力アップとか、新製品の開発支援ということで、製品の紹介を一まとめにして、クリックすると一覧が出たらよりいいと思うが、その辺はどうか。また、オリジナル製品の開発というのは、これはどういう感じのやり方なのか。

門脇高齢・障害支援課長：商品のカタログというのは、いろいろな作業所の商品を集めて、連絡先とかも含め掲載します。紙媒体だけではなく、ホームページにアップして、みんなが見られるような形でPRをしていきたいと考えています。

また、区制50周年に合わせてオリジナル製品を開発しており、今、8団体の方が11商品を開発してくださっています。例えば緑区のマスコットキャラクター、ミドリンをデザイン化したハンカチ、キーホルダーなど、いろいろなものを作っています。引き続きオリジナル製品の開発支援をしていきます。

【20 住み続けたいふるさと緑区事業】

齊藤議員：デザインマンホールは、写真を撮ったり割と人気がある。いろいろなところにもいろいろなマンホールがあって、マンホールを見つけながら歩いている人もいます。だからぜひ子供たちを主体としてデザインしていくといいと思う。それが1つの大きな思い出になるのではないかと期待をしている。これはどういう進め方をするのか。

松本緑土木事務所副所長：進め方としては、今月から各小学校に具体的な相談に入ろうと思っています。台紙を渡して子どもたちに書いてもらい、学校で1枚選んだものを印刷し、学校の近くのマンホールの蓋と交換していきます。

高橋議員：その印刷とはどういう素材か。樹脂か。

松本緑土木事務所副所長：これはセラミックです。印刷して、それを焼いて作ります。半永久です。

【23 みどり！まるごと応援事業】

齊藤議員：緑区遺産について、地域でも浸透してきているが、今日現在で何か所か。また、ウォーキングイベントは今回初めてか。

大塚区政推進課長：今日現在、18か所で、今年度は実は増えていません。

ウォーキングイベントは30年度に1度、実施しまして、いくつかの箇所を回るという形でエリアを分けて3回行いました。実際

	<p>に運営には緑区ガイドボランティアの会や、鴨居駅周辺まちづくり研究会などいろいろ協力をいただきました。かなり評判がよかったので、31年度もぜひやりたいと思っています。</p> <p>【27 緑・芸術文化事業】</p> <p>高橋議員：区民文化センターは公会堂と違って地域の文化、芸術の発信拠点になっていかなければいけないところだ。50周年とかふれあいコンサートとか、音祭りとかをどう捉えてつなげていくのか。緑区の区民文化センター50周年のレガシーとしてプログラムの、ソフト的な考え方を持っていてもいいのではないかと思うのだが、そのあたりはどうか。</p> <p>三瓶地域振興課長：区民文化センターにつきましては、市会でも指定管理者が今度変わるという話があったと思いますが、今回、指定管理者の公募に関しまして50周年事業などを行う等を公募の要件に入れていますので、4月以降の新しい指定管理者が50周年なども含めて、また、音祭りとの連携なども含めてしっかりとやっていくことになると思います。</p> <p>【SDGs 未来都市地域主体型事業 地域のつながりづくり推進事業】</p> <p>高橋議員：回遊性のよい都心臨海部に比べて、横浜線というのは非常に大変重要な路線であるにもかかわらず、取り残されている。緑区を持続可能な地域としていこうと思ったら、地域コミュニティーを成り立たせていくための交通網は必須だ。山下地区や東本郷地区で、ふれあいバスを一生懸命やってはいるが、まだまだ足りないのが実感だ。空き家だとか空き店舗といった箱ももちろん大事だが、地域交通の研究はやっていくのか。</p> <p>小野崎区長：これから高齢化、人口減少が進んでいく中で地域交通をどうしていくのかというのは非常に重要な課題だと思っています。実際に高齢者の足をどうするかという問題は地域課題として挙がっています。この点については、中期計画の中でも地域交通のあり方ということで、各局一丸となって検討したいと思っています。シェアリングや、自動運転などを含めて市全体で議論されることになりそうですし、一緒に考えたいと思いますが、当面のものとしては山下のような実験的な取り組みをどんどんやっていきたいと思っています。</p>
備 考	(資料) 平成31年 第1回区づくり推進横浜市議員会議(緑区) 次第 平成31年度 個性ある区づくり推進費 予算案